

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(1号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地の1		
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果市町村受理日	令和3年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた広い敷地内で、青空・山の緑・鶯の鳴き声や蝶々やトンボを、目や耳で楽しみながら午前中の散歩を日課としています。1年を通し催し物(初詣、お花見、夏祭り、運動会、餅つき等)を計画し、入居者様と一緒に準備をして、地域の方やご家族様も招待し季節を感じるようにしています。
職員は笑顔絶やさず、明るく入居者様に接し、その方を中心に『今・出来る事』を発揮できるように支援しています。
職員間の連携も良好で、チームケアで介護に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2276400071-00&ServiceCd=320&Type=search

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地の中に畑や花壇があり、平屋建ての3つのユニットが別棟になっていて、里山の風景があり、季節を感じる桜や銀杏が植えられている。陽当りの良い場所にベンチが置かれ、利用者が職員と一緒に一休みしながら敷地内の遊歩道を散歩できるよう工夫がされている。袋井市で初めて建てられたグループホームで建物の年数は経っているが室内は清掃が行き届き清潔に保たれている。職員の多くは勤続年数が長く、出勤簿が入口近くの棟に設置されており、出退時に立ち寄る事でコミュニケーションが取れ、防災や行事等意見交換をしながら連携して運営している。隣接する袋井ケアセンターも同法人の運営でAEDの講習等は合同で行なっている。施設発行の「お便り」は温かみがあり、利用者の日常の様子がわかる表現になっている。居室の入口には避難の際に誰でもすばやく援助ができるように、利用者の状態がわかる車椅子、杖歩行等のマークがつけられ、予備の車椅子が準備されて災害に備えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 11月 13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『思いやりの介護で笑顔いっぱいの家』の理念に沿って、入居者様に笑顔になって頂ける様に職員一同心がけ実践している。	「思いやりの介護で笑顔いっぱいの家」は前管理者から続いて使用している事業所の理念で、職員に浸透している。新人職員にベテランの職員が理念について教えるしくみがある。3つのユニットが別棟になっているが職員は3棟が一緒になり、連携して「紅葉の家」という意識で一つにまとまっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのふれあい交流として夏祭りを毎年実施しているが、今年は三密を避け施設のみでの実施とした。毎年、美化清掃には参加し地域とのつながりを保っている。	自治会の賛助会員で管理者は毎月、自治会の寄り合いや地区の美化清掃に参加している。地区の防災訓練、祭り、行事、認知症カフェにも利用者と職員が参加していた。例年は、事業所の祭りに地域の子ども会、老人会、自治会家族の参加があり、盛大に行っていたが、今年は規模を縮小して行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に認知症カフェに参加し、地域の方との交流を深め、認知症の人への理解を理解を深めて頂くように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	紅葉の家のつなぐ会(運営推進会議)は、書面により開催報告とさせて頂いている。開催日前には電話で連絡をし、要望やご意見を伺い、サービスの向上に活かすように努めている。	運営推進会議という名称を地域の人や家族に開かれた場、馴染みのあるものにするという思いで「紅葉の家のつなぐ会」にしている。2ヶ月に1度第2土曜日の午後自治会長、民生委員、老人会会長、地域包括支援センター職員、家族の参加で開催している。市の方針でこの3月からは書面開催で行なっている。会議録は家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや介護保険係の担当者との連絡を取り、空き状況を共有している。	市の主催のグループホーム連絡協議会には管理者が出席している。地域包括支援センターとは入居者紹介の声かけをしてもらったり、認知症カフェに利用者が毎回楽しみに職員と参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝の散歩や日光浴で外へ出たり、入居者様が外に出たいと言われれば職員が付き添い何時でも外に出ている。危険が生ずる場合以外は行動を制限するようなことはせず、入居者様の自由に行動して頂いている。3ヶ月に1回委員会を開き事例検討し、理解を深めている。	身体拘束の指針は整備され、委員会は管理者、各ユニットのリーダー、エリアマネージャーで構成されていて、3ヶ月に1度、第3金曜日の職員会議の前に会議を行ない、職員会議で報告をしている。研修は法人主催で年に2回実施している。現在も散歩に出掛けられるよう支援し、外部評価当日も職員が付き添い、頻繁に出かける様子が伺えた。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や朝礼でも繰り返し虐待については話し合い防止に努めている。職員間でも不適切な声掛けが無いように注意しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は勉強会を行っている。他館で後見人のついている方もいるので、制度について知る機会を得ている。必要のありそうなご家族様にはお知らせしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や変更のあった時には必ず、説明し理解を得ている。質問や疑問、不安はその都度聞き、納得いくまで丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしているが、なかなか利用されていない為、直接話をしてご家族や入居者様の要望や意見をくみ取るようにし、運営推進会議の場で必要があれば報告してる。	毎年3月にユニットごとに家族に来てもらい、茶話会を開催している。緊急時の対応について消防より確認があるので家族の参加は多い。コロナ対応で時間を制限して予約で面会を行う予定だったが状況によって変更するので家族とは頻りに電話で連絡をとっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開き意見や要望を聞く機会を設け、反映させている。会議に不参加だった職員にも内容が解る様に記録を残している。	毎月第3か第4の金曜日に各ユニット持ち回りで職員会議を行なっている。今回は「コロナ時の面会方法について」話し合った。また、毎月15日には防災について話し合いを行なっている。議事録は全職員に回覧している。職員同士は話がしやすく、管理者にも相談しやすい関係性が出来ている。	職員は提示した内容や投げかけた問題に対して意見や考えを話したり、利用者のケアもきちんと行なっている。運営に関して職員が自発的に意見や提案ができるような工夫に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「給与・勤務・職場110番」が法人にあり疑問・質問があれば聞ける体制が整っている。資格を持つことで給与に反映され、やりがいや向上心を持って働ける環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は必ず全職員が受けている。法人外の様々な研修を職員に告知しているが、コロナ禍の為研修も少なく、三密を避けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催で、市内のグループホームの集まりがあり情報交換会をしている。三密を避け電話等で情報交換に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に困っている事や不安、要望を日々の会話の中から聞き出すようにし、関係作りをしている。言葉に出せない方は、思いを汲みとるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事や不安、要望を伺い、可能な限り取り入れ、チームケアで希望に添うように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族が今1番必要としている支援を、会話の中から聞き出し、そのサービス利用も検討し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の生活ぶりや、生活習慣を聞きだし、そのパターンに合わせた生活が出来るようにしている。一緒に食事を作り、食べたり、レクリエーションを一緒にしたりして、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は面会制限をさせて頂いているが、来設の時には入居者様の様子を伝えたり、相談したりして共に支えていく関係作りを築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要が有る時には検温、消毒をして面会している。その時に、ご家族様がテレビ電話で通信したりしている	別棟のユニットの利用者と敷地内の散歩で会うと話をしたり、ユニットに訪問することもある。系列の袋井ケアセンターの売店にお菓子を買いに出かけたり、認知症カフェへ出かけたり、祭りで知人に会うこともあった。現在はコロナ対応で制限されていることが多い。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他館の馴染みの方に会いに行ったり、訪問してもらったりして関係性が途切れないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関連施設への移動となった場合は、情報を共有している。又必要に応じて相談や支援をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で入居者様の仕草や会話の中から、又ご家族様との会話の中から思いや希望をくみ取ってる。	入居前に知り得た情報をまとめた「情報収集シート」に入居後も日常生活や会話の中から知り得たこと、今まで不明な点で解ったことを書き加えて職員間で共有している。困難な利用者の場合は家族や関係者から情報を収集して本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中から、アセスメント時には収集できなかった情報を拾い上げ、ユニット職員が共有できるように記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の流れはあるが、参加は自己決定して頂く事で、入居者様の希望される過ごし方をして頂いている。特別な事が有った場合は記録に残し、情報を共有し、状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てるに当たり、家族や本人の意向をしっかりと伺っている。3ヶ月に1回モニタリングを行い満足度や不満等を伺って現状に適した計画に変更する事もある。	モニタリングは介護計画書の短期目標のチェックをしている。本人と職員が3ヶ月に1度話し合っている。困難な利用者の場合は問いかけに対してのうなずきや表情で判断している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護詳細記録に気づきやご本人の気持ちや行動を記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩の時間以外でも外に出たい希望があれば職員が付き添い外に出たり、他館の行事に参加したりしている。その方に合った1番のサービスをいろいろな方向から考えていくようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年地域の敬老会、子供会を招待して夏祭りを行っていたが本年は三密を避け施設のみで行った。市から花の苗の提供があり花壇を作り植え替えを入居者様とともにいき、散歩時に愛でるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度往診があり、緊急時にも対応して頂ける様に良好な関係を築いている。往診医で対応不可能な場合はご家族様協力のもと、他科受診をしている。薬は薬剤師が届けてくれ、変更時には注意点・使用上の説明を受けている。	利用者のほとんどが協力医の往診を月に1度利用している。入居前のかかりつけ医や専門医には家族対応で受診してもらっているが、必要に応じて職員が同行する。利用者の体調に変化があった時には協力医に相談し、管理者が同行して受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の健康観察時には日常の気づきや体調の変化があれば伝え、助言を得て受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には施設での生活の様子を伝え情報共有し、安心して治療できるようにしている。退院時にはカンファレンスに参加し、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の生活状態の変化に応じ、頃合いを見て終末期のあり方について家族と話し合う機会を持っている。施設で対応できる事と、出来ない事を伝え、系列の施設を紹介するなど対応している。	契約時に重度化、終末期の対応について事業所の方針を説明し、同意書をもらう。緊急時救急の確認書を消防署より要望されているので毎年家族に確認をしている。事業所対応できる終末期の利用者については協力医が24時間体制で対応し、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時におけるマニュアルがあり、全職員が目を通し備えをしている。年に数回勉強会もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回定期的にさまざまな災害を想定して防災訓練の話し合いを行っている。年に2回の防災訓練を行っているが、その後も復習を兼ね行う事で全職員が身につくようにしている。	毎月15日に火災、風水害、ハザードマップ、講習会の情報等を参考に防災について話し合いを行っている。年2回の訓練の際には消防署の立ち会いで行うようにしている。系列の袋井ケアセンターで1年おきにAEDの救急法を日本赤十字協会の講師に講習してもらっている。居室の入口に避難時に誰でもすばやく援助ができるように車椅子、杖歩行等のマークが掲示されている。備蓄は3日分あり本部が補充してくれる。	毎月の話し合いでさまざまな災害を想定しているが全職員があらゆる訓練を実践し災害に備え、長期停電の対策も考えられるよう望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の話し方に合わせて、人格を尊重し、プライドを損ねない様に、慣れ親しんだ言葉で声掛けし、対応している。	職員は日々の関わりの中で接遇やスピーチロックには注意をしている。トイレへの声かけは直接的な表現はせず言葉を変えて誘導している。また、食事の時にはソースか醤油をかけるのか利用者に声かけをし、ティータイムにはお茶か麦茶、コーヒーか等選択してもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、何か行う前には声掛けするか、自己決定が出来るようにいくつかの答えを準備し選択できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースで過ごしてもらっている。その日の体調を見ながらご本人の希望にそえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自宅で着ていたものを持って来ていただき、今までと変わらない身だしなみやおしゃれが出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備を手伝っていただく事で、食への興味、関心を持つきっかけを作り、食べ終わった後は下膳を自らする方も居る。お花見弁当や牡丹餅、流しそうめん、餅つき等、用意し季節感を感じる食事も楽しみの一つとなっている	野菜の皮むきや盛り付け食器拭きなどできることを継続して行ってもらっている。訪問日には女性の利用者2人が話をしながら食器拭きをしていた。誕生会や季節の行事には食事レクリエーションで柏餅作りや流しそうめん等をして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックをし、声掛けし1日分の量を確保できるようにしている。不足気味の方には栄養補助食品等で補っている。食事形態もその方に合うようにその都度替えている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、入れ歯の洗浄を自分で行っている。介助が必要な方には適切な声掛けや介助をしている。散歩や外出後には必ず、うがい・手洗いをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、誘導の必要の方は誘導している。汚れの気づかない方にはパットの確認をさせてもらっている。	布パンツの利用者も多く、1人でトイレに行かれる利用者には後でさり気なく排泄の様子を聞いたり確認をしている。排泄が上手いかなかったケースは記録をして職員全員で次回から気をつけるようにしている。入居前に紙おむつの利用者がリハビリパンツから布パンツに改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排便が無いと落ち着かない方が多い為、水分を多めに摂ってもらうようにしている。朝は体操、散歩への参加を促し腸内活動を活発にさせ、自然排便が出来るように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全確保の為、職員の多い時間帯に行っている。お湯の温度調節をこまめにし長く入りたい方には疲れない程度にゆっくり入浴できるように順番も考慮している。	週に2回午後に入浴してもらっている。前回の外部評価で指摘された脱衣所の件は不必要な物を始末し、整理整頓を心がけすっきり片付けている。浴槽が広いので気の合う人同士で入浴することもある。冬の時期にはみかんの皮を干して入れることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時には居室で休めるように居室への出入りは自由にしている。居室でも快適に過ごせるように温度や明るさに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の薬剤票に目を通し確認、理解に努めている。服薬時には名前、日にち、呑み込むまで確認し、誤嚥の無いように気を付けている。薬が変わった時には薬剤師より説明があり、症状の変化があれば記録に残し職員が周知するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある役割を見出し、そのお手伝いをやって頂き、喜びを感じている様子。季節の行事やレクリエーションを取り入れ気分転換が出来るようにしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、極力外出は控えている。日々の散歩は気分転換も兼ね出来る限り毎日行っている。肌で季節を感じてもらっている。	施設の敷地が広く、畑や花壇があり、ユニットをつなぐ道が遊歩道の様になっている。桜や銀杏の木が植えられているので季節を楽しみながら散歩ができ、ベンチもあり外気浴ができる。交通量が少ない袋井ケアセンターへの道も、散歩することができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理が難しい方が多い為、こちらでおこずかいを預かり、1人1人の希望に応じて、必要なものを購入させてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて必要時、電話をしている。コロナ禍で面会が少なくなっている為、手紙やはがきを出してくれるご家族様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除を欠かさず清潔を保つようにしている。エアコンやカーテンを上手に使い温度管理をしている。時候の壁面飾りを早めに作成し季節感を感じるようにしている	施設の建物の外壁や扉、カーテンをユニット毎に色分けし、年に2回のワックス塗り、毎日職員と利用者での掃除で清潔を保っている。季節を感じる掲示物が目につく所に飾ってあり、季節の行事や利用者の笑顔の写真が玄関からのエントランスに貼ってある。窓が広く事業所の周りの四季が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているがそれ以外はそれぞれ思い思いの場所で気の合うもの同士で歓談している。1人になりたい時には居室へ自由に出入りできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた馴染みの物を持って来てもらうようお願いし、居心地良く過ごせる様に心がけている。	各部屋にある洗面台には歯磨きセットが置かれ、クローゼットには衣類、布団、個人のリハビリパンツやパッド等が収納されている。家で使っていた椅子がテレビが見やすい場所に置かれている。避難時に使用される車椅子がすぐに取り出せる所に置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に張り紙(トイレには便所と記したり)をしている。食器拭き当番も表にして掲示してあり、見て確認し、やってもらうようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(2号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地の1		
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果市町村受理日	令和3年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた広い敷地内で、青空・山の緑・鶯の鳴き声や蝶々やトンボを、目や耳で楽しみながら午前中の散歩を日課としています。1年を通し催し物(初詣、お花見、夏祭り、運動会、餅つき等)を計画し、入居者様と一緒に準備をして、地域の方やご家族様も招待し季節を感じるようにしています。
職員は笑顔絶やさず、明るく入居者様に接し、その方を中心に『今・出来る事』を発揮できるように支援しています。
職員間の連携も良好で、チームケアで介護に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2276400071-00&ServiceCd=320&Type=search

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 11月 13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念は「思いやりの介護で笑顔いっぱいの家」を頭に入れ職員は笑顔を心掛け入居者一人ひとりが住み慣れた地域で季節の変化を感じながら行事などを楽しみ過ごして頂ける様に考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の美化運動に参加し地域の方と交流を持ち、情報交換の機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(つなぐ会)には自治会長様はじめ民生委員、敬老会の役員の方に参加して頂き施設の運営内容を理解して貰っています。いつでも相談しやすい関係性を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ渦の為開催は出来ていないが、2か月に1度運営状況報告等書面でお渡しして意見などの聞き取りをし何かあれば職員で共有し改善策を考え実践している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の受け入れ状態等、常に市の担当者と連絡を取り現在の施設の取り組みや特色などを知って頂き関係性を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の希望があればいつでも外に出れる様に対応している。入居者様がやりたい事が有れば、禁止するのではなく危険を取り除き、一緒に行うようにしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化検討委員会を定期的に行い館長を中心に日頃の状況を話し合い、虐待となりえるかもしれない事例など出し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が勉強会などで学び他の職員と共有し理解を深めている。もしそれを活用したい入居者がいれば再度確認し合いサービスにつなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に解りやすい説明を心掛けている。その後も、不安や疑問点等無いか確認し、職員全員が同じ対応が出来る様共有をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議で、入居者・家族と話しやすい関係性を心掛け、意見を出せる場所を作っている。出た意見を運営に反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開き職員の意見を出し合い反映につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいをもち働ける様達成手当や資格手当を設けている。稼働率をあげたり満床維持の取り組みが給料に反映される様になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内の研修に参加したり、外部研修の情報の提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	館長が他の施設との会議に参加したり他の施設と情報の交換をする事でより良いサービスの提供に心掛けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成前に本人の生活歴や既往歴を把握し本人の話から気持ちをくみ取り安心して張り合いのある生活が出来る様なプラン作成をし、それを職員で共有し日々変化に合わせた対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成前に家族の意向を聞き本人の意向を家族に伝えた上でプラン作成をしそれを職員で共有する。何か変化が有れば連絡を行い話しやすい関係性を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の現状の把握をしその方の気持ちに寄り添い必要であるサービスを見極める。職員で話し合いの機会を常に持ちより良いサービスを思案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの役割を持って頂く様にしている。入居者一人ひとりに合わせた対応を行い好きな事や興味がある物の話に耳を傾け活動などに取り入れて一緒に楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは何かあれば連絡をし相談しながら対応している。入居者の日常の様子、会話の内容などを家族に伝え現在の様子を知って頂く様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在面会中は中々出来ない状態だが、面会条件が合えば時間を縮小して面会して頂いたり電話などが有れば取り次ぎをし対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流を持ちやすい席の配置を考えている。職員が入居者同士の会話の架け橋になったり活動の中で会話の機会が増える様に声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談や情報提供の協力をし、家族にも何かあれば相談して頂ける様に言葉かけをし話しやすい関係性を心掛けていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴、思いや人柄など理解し本人の気持ちを尊重し日常生活を過ごして頂く様にしている。職員内で日頃の変化や出来事の情報交換をし検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の今までの生活歴、サービスの経過を把握した上で日常の会話に繋げ会話の中で新しい情報があれば共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、介護詳細記録に記録を残し、職員で把握をして情報の共有をしている。申し送りノートも活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が出来る事は継続し、必要な支援を受ける事を考えて本人を中心とし関わる色々な方の意見を取り入れる様にしている。常に変化に対応しながらプランの見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何かあれば介護詳細記録に記録をし対応の変更時は職員で話し合い共有をしている。変更時は記録をし、介護計画の変更をしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化に対応しながら入居者一人ひとりにあったサービス提供を心掛けている。要望があれば出来るかぎり対応出来る様になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は地域の交流は控えているが、今後、認知症カフェなどには十分な感染対策を取り参加していくようにしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	カテーテルの導入されている方などは専門医にお願いし往診、又は家族に受診して頂くなどそれぞれの家族の事情に合わせている。他かかりつけ医に月一度往診して頂き何かあれば相談しながら対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に何度か看護師に回診に来てもらい何かあればその都度相談し連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には施設での情報を伝え、退院時には入院中の経過、退院後の注意事項などの聞き取りをし連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に状態の変化を月に一度書面で伝え、何かあれば電話連絡をしている。必要な介護を受けられる様に家族と相談しながら、状態に応じて他の施設への移動なども含め早めの話し合いをする様にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の勉強会を定期的に行っている。急変時の対応を職員同士で確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度防災の日を設けて避難訓練、水害時の対応を確認しあい理解を深めている。災害時のマニュアルの冊子を常に読める様にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実際の職員の言葉かけや対応などから反省点を話し合う機会を作り、その後も改善出来ているかの話し合いを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せない方には表情や態度、様子から気持ちをくみ取り、その他、複数の選択肢を提供して気持ちを言いやすい様にしている。話しやすい関係性を築く様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールの中でも一人ひとりのペースで過ごして頂く様にしている。職員は入居者の気持ちに合わせ声掛けし対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時期にあった身なりをして貰うように対応している。必ず本人に伺いながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの要望があれば出来る範囲で対応している。野菜の皮むきや後片付けを一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックをし、提供した水分は摂取して頂く様に声掛けしている。個別に水筒、ペットボトルでの水分提供している。米飯量は個々に量を調整し提供している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は職員は声掛け、見守りをし、そうでない方は職員が介助をしながら一緒に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、尿、便の確認をしている。時間での誘導、居室に戻る時にさり気なくトイレに誘うなど前向きな声掛けを心掛け工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックをし定期的に排便があるか確認をし、水分の進め、必要であれば便秘薬の服用を医師に相談しながら行っている。散歩時や廊下歩行、起立訓練などにお誘いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	片麻痺の方で自分のペースで着脱、洗身をされたいとの希望があり、入浴の日を他の方と変えて行っている。他の方も入浴を楽しみにされている方が多いので着脱からで入浴まで不安なく気持ち良く進むように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にしっかり休んでもらえる様に昼間の活動を多くしたり外で日光を浴びたりしてリズムを整えている。疲労感の強い方は1時間程度の日中の静養をとるなど、様子を見ながらそれぞれの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や、追加、中止があれば副作用などを職員で把握しその後の体調の観察を行い、気になる事が有れば介護詳細記録に記録を行い共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の手伝いを積極的にお願ひし、労いの言葉かけも忘れない様になっている。他に得意な事や興味を持った事が有れば、ゲームやリクレーションに取り入れたりして工夫している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は施設外に出る様な支援は控えている。特別希望があれば家族支援をお願いしている。敷地内では天気の良い日は外気を吸って気分転換して頂く様にしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何か欲しい物の希望があればご家族にお願いし一緒に買い物に出たり、こちらで用意出来る物は用意するなど入居者の希望に沿うよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙のやり取りの支援をしています。返事を書かないとしても家族からの手紙や写真などから本人との会話を増やし、その時の入居者の様子を家族に伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に清潔にし、室温、明るさをなど日中の時間帯に合わせて調整し対応している。それぞれの移動の導線を把握しストレスなくスムーズに移動出来る様配慮している。ホールには季節の掲示物を入居者と作成し、掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外はソファで過ごされる方や、他のテーブルの方の所へ行きお話される方、居室で過ごされる方それぞれの時間を過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は使い慣れた物を持参して頂き配置は相談しながら行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂には表示とイラストを掲示し解かりやすくしている。それぞれの居室入口にその方の名前を貼り安心して入室して頂ける様にしている。廊下には物を置かず、居室内も移動がスムーズに出来る様に家具の配置をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(3号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地の1		
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果市町村受理日	令和3年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた広い敷地内で、青空・山の緑・鶯の鳴き声や蝶々やトンボを、目や耳で楽しみながら午前中の散歩を日課としています。1年を通し催し物(初詣、お花見、夏祭り、運動会、餅つき等)を計画し、入居者様と一緒に準備をして、地域の方やご家族様も招待し季節を感じるようにしています。
職員は笑顔絶やさず、明るく入居者様に接し、その方を中心に『今・出来る事』を発揮できるように支援しています。
職員間の連携も良好で、チームケアで介護に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2276400071-00&ServiceCd=320&Type=search

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 11月 13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの介護で笑顔いっぱいの家」の理念のもと、職員は入居者様の気持ちに寄り添い明るく安心した生活を過ごせるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により推進会議や夏祭りに参加していただけない状況にあるが、職員が地区の草刈り等に参加して、地域とのつながりを継続できるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響により書面での開催報告となっているが、運営推進会議にて認知症から起こりうるインシデントや事故報告を伝え理解や支援の方法を一緒に考えていただく様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により推進会議は書面での開催報告とさせて頂いているが、入居者様の様子や行事、サービスの報告をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや介護保険係の担当者と連絡を取り空き状況を知らせている。介護相談員の来設により話し合いの機会もあります。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3か月に1回実施し、職員が具体的に事例を出し合い協議し、正しく理解するようにしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会の中でも虐待防止の話し合いをしている。何気ない言葉使いも虐待になりうることを理解し、職員皆で注意しあい防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は勉強会を行っている。また過去の入居者様に生活支援を利用されている方もおり、学ぶ機会が持てました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面での通知をし、家族からの質問があればご理解納得していただけるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話での連絡をさせていただいた時や、来設時にご家族様からお話をうかがい運営に反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を行い、意見や提案を出せる場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	堀改革により、本部職員からの説明を定期的に受けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は必ず受けている。法人外の研修や講習会の知らせを告知し、積極的な参加を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業の職員と交流する機会があり、それを通してサービスの質の向上ができています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の気持ちに寄り添い親身になって話を聞き、安心した生活を送って頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安な事、要望の言える環境作りに努め、ご家族様の意見に添える様に介護をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の話を聞いたうえで必要とされている支援を見極め、いろいろな角度から検討し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、炊事、趣味など、今までやってきたことを職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には施設での対応の仕方や本人の困っている事等伝え、ご家族の意見も聞きながら良い支援が出来る様に関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響により今まで通りに出来ない点もあるが、ご家族や知人が来られた時は、検温していただき体調に問題ない事を確認させていただいたうえで面会していただいている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間と同じ席にしたり、耳の遠い方には職員が間に入り楽しく過ごしていただけるようにしている。又散歩時に他館の方と挨拶を交わしたり、他館に遊びに行き交友関係を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば本人の経過など、ケアマネや関係先の相談員に伝え、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と会話をしたり、日頃の様子を観察する事で思いをくみ取り、気づきの介護を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成時に情報収集しているが、ここでの生活が始まってからも、ご本人やご家族からお話を伺う事でサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人日頃の様子を観察し、心身状態の変化等見逃すことの無いように努めている。又職員皆が周知徹底するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度モニタリングを行い、その時に本人の困っていることや希望を伺い、ご家族の意見も伺いながら出来る限りプランに取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過に気付いたことを記入し、職員間で情報を共有しながらより良い介護が出来る様活かしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	欲しいものが売店にない時は職員が買い出しに行ったり、リハビリを希望される方はケアセンターへ行くなどして、出来る限り本人の要望に応えられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナの影響により参加を控えています。2カ月に1度開催される認知症カフェに参加し、施設外の方達との交流を楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度かかりつけ医に往診に来ていただいている。急変があった時にはその都度連絡し、症状に合った処置をして頂く様になっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の回診時には、日頃の様子や少しの変化も伝え、適切な受診や看護に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には施設での様子や認知症に関する内容を伝えている。医療連携室や担当看護師と連絡を取りスムーズに退院出来る様連絡を取りあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限り早い段階でご家族との話し合いの場を設けている。連携の施設に移動できる話もさせていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED短期講習会に参加している。又入居者の体調を把握し、急変時の対応方法を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練を行っている。いろいろな災害の想定をし、対応の仕方を話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った言葉遣いや対応を心掛けている。居室に居る時はノック、声掛けをしてから入室し、トイレ介助や入浴も気を配りプライバシーを損ねない対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者の言葉に耳を傾け、何か行う前にはご本人の意見を必ず伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員から強要する事無く、ご本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方には好きな服を選んでいただいている。毎日お化粧される方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みの献立に変更したり、季節の分かる料理を提供し、食事の楽しみを増すようにしている。食事の準備や後片付けのお手伝いも一緒にしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックしている。状態や体調に合わせ栄養補助食品を摂取したり、刻みやとろみをつけて提供している方もいる。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	まずご本人にやっていた頂き、仕上げに職員が口腔ケアを行っている。月に1度歯科往診をされてる方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄の時間を把握する事で失敗を減らせている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自身で腹圧のかけられない方は職員がマッサージを介助したり、水分を多めに摂っていただき腸の働きを活発にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最後に入りたいと言われる入居者様の希望に添ったり、気の合う方と一緒に入り会話を楽しみながら入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調や希望に添って、休みたい時に休んで頂いている。居室の温度にも気を配り、安眠して頂ける様心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人内服の用法容量は理解している。薬が変わった時は必ず申し送りし、変化があれば記録し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人役割を持ってお手伝いして頂いている。今までしてきた趣味を楽しまれる方もいれば、ここに来て新しい趣味を見つけられた方もいる。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為外出は極力控えていただいているが、気分転換に散歩には出かけている。コロナ前には地域の行事等、希望される方は積極的に参加していただくよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望に応じて売店に注文している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家人に伝え家人から連絡をいただいている。携帯電話を所持されてる入居者様もおり自由に連絡していただいている。又、定期的に手紙を下さる家人もおり、入居者様も楽しみにされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節に合わせた掲示物を一緒に作成し、会話が弾んでいる。館内の温度管理にも気を配り快適に過ごしていただける様配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールから居室まで仕切りがなく自由に行き来が出来る。気の合う入居者の部屋でテレビを観たり会話を楽しまれている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットやタンス、机等家で使い慣れたものを持ってきていただいている。趣味でしていた手芸などの作品を飾るなど、居心地良く過ごしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には移動の妨げにならないよう障害物を置かないようにしている。居室の扉やテーブルに名前を記したり、トイレの張り紙をしてわかりやすくしている。		